【樹木の部屋】

ニオイバンマツリ（ナス科ブルンフェルシア属 Brunfelsia latifolia ）

和名：匂蕃茉莉　別名：ブルンフェルシア、アメリカジャスミン

英名：Yesterday-Today-and-Tomorrow

ナス目　常緑広葉低木　　原産地：熱帯アメリカ

花言葉：幸運、夢の名、浮気な人　　花色：紫→白

← 写真-１　ニオイバンマツリ
撮影日：2022 年 5 月 20 日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：M　さん

↓ 写真-２　ニオイバンマツリの花
撮影日：2022 年 5 月 20 日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：M　さん

← 写真-３　ニオイバンマツリの蕾
撮影日：2022 年 5 月 20 日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：M　さん

日本には明治時代末期に渡来し観賞用に栽培され、「ブルンフェルシア」という名でも流通しているそうです。ブルンフェルシア属はニオイバンマツリも含めて約 40 種が知られているそうです。和名の匂蕃茉莉は、匂(香り)があり、蕃(外国)からの、茉莉(ジャスミン類)の意味で「香りのある外国からのジャスミン」を意味していますが、ジャスミンの仲間ではなく別属です。属名は 16 世紀ドイツの植物学者ブルンファルスにちなんでいるそうです。熱帯性の花木ですが寒さに比較的強く、南関東以南の暖地では霜よけをすれば越冬します。それでも冬季は多少紅葉し落葉します。暖地では常緑ですが、寒地では半常緑となります。

4 月～7 月にかけて漏斗状の 5 弁の花を同じ場所から 2 輪ほど咲かせます。この気候と同等の温度を保っていれば次から次へと、ほぼ一年中花を咲かす周年開花をします。花色は咲き始め濃い紫色で時間が経つにつれて、薄紫、最終的には白色に変色し、1 本の木で 3 色咲いているように見えます。株は本来大きくなりますが、家庭園芸では 30～60㎝程度の低木に仕上げることが多いようです。甘い香りを放ち、香りは夜に強くなります。

葉は互生し、広楕円形～倒卵形で、革質でやや厚みがあり光沢もあり、葉裏には毛があります。葉脈が目立たず縁は全縁で、果実は球形の液果です。

剪定は、花が咲き終わった後に行います。生育が良いため、放置すると樹形が崩れてしまうためです。樹形から飛び出した枝はﾊﾞﾗﾝｽを見て切り戻します。短くて生育が鈍い枝は根本から切り落とします。但し強く剪定しすぎると花数が少なくなってしまうので要注意です。

増殖は、結実することは殆ど無いため、ほとんど挿し木で増やしているそうです。ただ、花が咲き終わった後に実を成らせるものが稀に出てくるので、この時期は注意して観察して下さい。熟した実の中に非常に細かい粒種があります。

＜ちょっと一言＞

＊全草に神経毒性があり、特に未熟な果実や種などに中毒成分が多く含まれているそうです。 ﾍﾟｯﾄが誤って食べてしまうと、眼振・散瞳・嘔吐・ふらつき等の症状を起こし、病院へ運ばれたｹｰｽも確認されているそうです。

＊毒性は非常に強く、場合によっては死に至る事もあるそうで、小さい子供やﾍﾟｯﾄが誤って口に入れないように、管理には十分な注意が必要です。誤飲に注意すれば、普段の手入れでは、毒の心配は無いそうです。

＊ジャスミンはシソ目モクセイ科ソケイ属